

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

4. 国際連携と国際協力

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5052

4 国際連携と国際協力

海外研究機関との研究協力協定

国名	フランス
相手機関名	国立パリ・デカルト大学・人口開発研究所
協定書等名	国立民族学博物館と国立パリ・デカルト大学・人口開発研究所との学術協力に関する協定
締結日	2012年11月30日
協定終了予定日	2015年11月29日
目的	これまでの建設的な共同研究を評価し、これをさらに強化すべく相互の理解と関心という行動指針に基づき、今後の学術的共同研究を発展させるため、本協定を締結する。
協定内容	両機関は共同研究事業において、学術的交流および協力を推進する。
国名	中国
相手機関名	中国社会科学院民族学・人類学研究所
協定書等名	国立民族学博物館と中国社会科学院民族学・人類学研究所との学術交流協定
締結日	2012年8月28日
協定終了予定日	2015年8月27日
目的	両機関の学術交流を通して国際的な連携を進めるため、平等互惠と相互尊重の理念のもとに、この協定を締結する。
協定内容	<ul style="list-style-type: none">・研究プロジェクトの展開。・双方の教員・研究者交流。・研究資料、学術情報及び公開出版物についての交換と相互利用の展開。・その他両機関で合意された分野における協力。
国名	フィリピン
相手機関名	フィリピン国立博物館
協定書等名	国立民族学博物館とフィリピン国立博物館の学術協力に関する協定
締結日	2012年7月18日
協定終了予定日	2017年7月17日
目的	相互の理解、利益および協力の原則に基づいて学術協力および交流の強化および発展のために本契約を締結する。
協定内容	共同研究、研修、出版、展示等に関するプロジェクトにおける学術的な研究および交流の促進。
国名	アメリカ合衆国
相手機関名	アシウィ・アワン博物館・遺産センター
協定書等名	国立民族学博物館とアシウィ・アワン博物館・遺産センターの学術協力に関する協定
締結日	2012年6月3日
協定終了予定日	2017年6月2日
目的	相互に理解を深め、両機関の学術協力を通して友好関係を強化する。
協定内容	<ul style="list-style-type: none">・双方の教職員・研究者の交流。・共同研究プロジェクトの展開。・博物館資料の展覧および教育分野における協力活動。・学術研究資料、学術情報および公開出版物についての交換と相互利用の展開。・その他両機関で合意された分野における協力。
国名	ベトナム
相手機関名	生態学生物資源研究所
協定書等名	国立民族学博物館とベトナム生態学生物資源研究所の学術協力に関する協定
締結日	2012年3月22日
協定終了予定日	2017年3月21日
目的	相互の理解、利益および協力の原則に基づいて学術研究および交流の強化、発展のために本契約

協定内容	を締結する。 共同研究、研修、出版、展示等に関するプロジェクトにおける学術的な研究および交流の促進。
国名	ロシア
相手機関名	ロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館（クンストカメラ）
協定書等名	国立民族学博物館とロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館（クンストカメラ）との間の協力および文化交流に関する協定
締結日	2011年10月21日
協定終了予定日	2016年10月20日
目的	学術、文化の両分野において相互交流および協力関係を発展させることを目的とする。
協定内容	野外調査および学術・理論的研究、博物館関連活動の分野における交流を以下の項目について実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の交流 ・野外調査、学術・理論的研究、学術集会の共同実施 ・展示および教育プロジェクトの共同実施 ・学術情報および刊行物の交換 ・両博物館の合意による、その他のあらゆる学術分野の活動
国名	ロシア
相手機関名	ロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史学考古学民族学研究所
協定書等名	国立民族学博物館とロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史学考古学民族学研究所との間の協定
締結日	2011年6月1日
協定終了予定日	2016年5月31日
目的	考古学、人類学、及び民族学の共同研究を目的とする。
協定内容	2011年から2016年にわたって行われる考古学、人類学、及び民族学の共同研究を本協定の対象とする。協定は下記の事項を実現させるものとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・考古学、民族学の分野における共同調査 ・ロシアと日本における共同の研究集会 ・研究成果の共同出版
国名	ロシア
相手機関名	ロシア民族学博物館
協定書等名	国立民族学博物館とロシア民族学博物館との間の博物館学及び文化研究の分野における学術協力に関する協定
締結日	2010年12月3日
協定終了予定日	2015年12月2日
目的	博物館学、調査研究、文化財保護の各分野における協力・相互支援関係を樹立する。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・両博物館が保有する歴史的、文化的財産の保存状態改善を目的としたプロジェクトの支援 ・両博物館の研究者交流 ・ロシア民族学博物館が実施するシベリア、中央アジア、極東、北コーカサスでの民族学的フィールドワークへの民博の研究者の参加 ・両博物館が指名する経理、データベース構築、収集品の考証、資料の分類、保存科学などの諸分野の専門家の交流
国名	ペルー
相手機関名	教皇庁立ペルーカトリカ大学
協定書等名	国立民族学博物館と教皇庁立ペルーカトリカ大学との間の学術協力の一般協定
締結日	2010年12月1日
協定終了予定日	2013年11月30日

目的	双方の利益になる協力活動を実現するためのガイドラインを定める。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共同の研究活動とアウトリーチ活動 ・ 講演会とシンポジウムの共同策定 ・ 教員の交流 ・ 学術的または科学的資料、および双方の利益となる刊行物の交換 ・ その他、両者が互いに合意し、双方にとって有益な活動
国名	マダガスカル
相手機関名	アンタナナリヴ大学
協定書等名	国立民族学博物館およびマダガスカル国アンタナナリヴ大学の学術協力に関する協定
締結日	2010年11月22日
協定終了予定日	2013年11月21日
目的	互恵性と平等の理念のもとに、学術分野で相互に利益ある協力活動を進める。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究者の交換 ・ 共同研究プロジェクトの実施運営 ・ シンポジウムや講演の開催 ・ 学術情報や資料の交換 ・ 互いに同意したその他の学術協力の推進
国名	英国
相手機関名	エジンバラ大学
協定書等名	国立民族学博物館と英国・エジンバラ大学との研究交流協定
締結日	2010年5月17日
協定終了予定日	2015年5月16日
目的	相互理解と互酬性の原則に則り、両機関の学術研究交流を強化し、発展させる。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学術研究に関し、両機関が合意する事業の交流・協力
国名	中国
相手機関名	故宮博物院
協定書等名	国立民族学博物館と中華人民共和国故宮博物院との研究交流協定
締結日	2009年10月16日 / (更新) 2012年8月28日
協定終了予定日	2015年8月27日
目的	相互理解と互酬性の原則に則り、両機関の学術研究交流を強化し、発展させる。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学術研究に関し、両機関が合意する事業の交流・協力
国名	台湾
相手機関名	国立台北芸術大学
協定書等名	国立民族学博物館と台湾国立台北芸術大学との学術協力の協定
締結日	2009年5月15日
協定終了予定日	2014年5月14日
目的	相互の学術交流と両者の発展を目的とした学術協力関係を築く。
協定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 双方の教職員・研究者の交流 ・ 研究プロジェクトの展開 ・ 博物館展示品及び教育分野における協力活動 ・ 学術研究資料、学術情報及び公開出版物についての交換と相互利用の促進 ・ その他両機関で合意された分野における協力
国名	中国
相手機関名	内蒙古大学
協定書等名	国立民族学博物館と中華人民共和国内蒙古大学との学術協力の協定

締結日 2008年9月22日 / (更新) 2012年6月15日
 協定終了予定日 2017年6月14日
 目的 相互に理解を深め、両機関の学術協力を通して友好関係を強化する。
 協定内容

- ・双方の教職員・研究者の交流
- ・研究プロジェクトの展開
- ・博物館展示品の展覧及び教育分野における協力活動
- ・学術研究資料、学術情報及び公開出版物についての交換と相互利用の展開
- ・その他両機関で合意された分野における協力

国名 韓国
 相手機関名 大韓民国国立民俗博物館
 協定書等名 国立民族学博物館と大韓民国国立民俗博物館との文化交流協定
 締結日 2007年7月11日 / (更新) 2012年6月15日
 協定終了予定日 2017年6月14日
 目的 学術、文化交流を通して友好関係を強化し、この関係を発展させる。
 協定内容

- ・教職員及び研究者の交流
- ・共同研究及び研究集会の実施
- ・博物館の展示及び教育活動に関する協力
- ・学術的情報及び出版物の交換
- ・両機関で合意されたその他の事業

国名 台湾
 相手機関名 順益台湾原住民博物館
 協定書等名 国立民族学博物館と順益台湾原住民博物館との学術協力協議書
 締結日 2006年7月1日 / (更新) 2008年1月1日 / (更新) 2009年4月1日 / (更新) 2010年4月1日 / (更新) 2011年4月1日 / (更新) 2012年4月1日 / (更新) 2013年4月1日
 協定終了予定日 2014年3月31日
 目的

- ・台湾原住民族の現代的動態に関わる人類学的、言語学的、歴史学的調査
- ・国立民族学博物館ならびに他の博物館に収蔵されている台湾原住民族関連の資料に係る調査
- ・上記に係る報告書ならびに研究誌の発行

国名 ペルー
 相手機関名 ペルー国立サン・マルコス大学
 協定書等名 国立民族学博物館とペルー国立サン・マルコス大学との間における考古学調査と学術交流に関する協定
 締結日 2005年6月14日 / (更新) 2010年5月18日
 協定終了予定日 2015年5月17日
 目的 考古学分野における共同調査の遂行、ならびにそれに基づく学術交流を促進すること。

MINPAKU Anthropology Newsletter

Newsletter 34 (June 2012)

Business and Anthropology

- The Genesis of *Keiei Jinruigaku* at Minpaku ————— Hirochika Nakamaki
Business and Anthropology ————— Brian Moeran
Thoughts on Anthropology and Business ————— Tomoko Hamada Connolly
China's Private Enterprises: An Enterprise Anthropology Perspective ————— Zhang Jijiao
A Few but Valuable Things that I Learned from Nakamaki Sensei ————— Heung Wah Wong

Newsletter 35 (December 2012)

The Anthropological Study of Humans and Textiles

- Discardable and Undiscardable Textiles and Clothing ————— Teruo Sekimoto
Urban Transformations in the Value of Used and Old Textiles ————— Ilja Van Damme
Shifting Functions of Two Major Second Hand Clothing Markets in 17th-18th Century Edo:
Tomizawa and Yanagihara ————— Miki Sugiura
Sacred Rag, Shoddy Rag ————— Ulara Tamura
Regaining 'Fashion' Value:
The Trans-border Trading of Second-hand Clothing in East Africa ————— Sayaka Ogawa

みんぱくフェローズ

客員研究員等で国立民族学博物館に在籍した研究者で、帰国後も継続的な関係を維持するためにMINPAKU *Anthropology Newsletter*を送付している研究者、および国立民族学博物館と関連の深い国内外の研究機関で、MINPAKU *Anthropology Newsletter*を送付している研究機関。

アジア・中東・オセアニア		ヨーロッパ		北米・中南米		アフリカ	
アラブ首長国連邦	2	アイスランド	2	アルゼンチン	1	エジプト	3
アルメニア	2	イタリア	3	米国	164	エチオピア	4
イスラエル	11	英国	55	エクアドル	1	エリトリア	4
インド	12	オーストリア	3	カナダ	17	ガーナ	3
インドネシア	17	オランダ	17	ガイアナ	2	カメルーン	1
オーストラリア	31	キプロス	1	グアテマラ	5	ケニア	4
韓国	45	ギリシャ	2	コロンビア	2	コートジボワール	2
カンボジア	1	スイス	5	チリ	1	ザンビア	11
サウジアラビア	4	スウェーデン	13	パラグアイ	1	スーダン	1
サモア	2	スペイン	3	ブラジル	5	スワジランド	1
シンガポール	5	スロベニア	1	ペルー	10	タンザニア	2
スリランカ	2	チェコ	3	ボリビア	3	ナイジェリア	3
ソロモン諸島	2	デンマーク	4	ホンジュラス	1	ナミビア	1
タイ	26	ドイツ	40	メキシコ	3	ボツワナ	2
台湾	31	ノルウェー	6			南アフリカ	6
中国	202	フィンランド	4			マダガスカル	1
トルコ	5	フランス	26				
ニュージーランド	7	ブルガリア	4				
日本	213	ベルギー	3				
ネパール	8	ポーランド	6				
パキスタン	2	ポルトガル	2				
パプアニューギニア	1	マケドニア	1				
パレスチナ	1	ルーマニア	2				
フィジー	6	ロシア	14				
フィリピン	7						
ブータン	3						
ブルネイ	3						
ベトナム	7						
香港	3						
マレーシア	10						
ミャンマー	8						
モンゴル	12						
ヨルダン	7						
ラオス	3						
小計	701	小計	220	小計	216	小計	49
総計							1186

博物館学コース

国際協力事業団（JICA）が主宰し、本館が中心となって1994年から10年間実施してきた「博物館技術コース」は、発展途上国における諸博物館の技術向上と、博物館間の国際的ネットワーク構築に大いに貢献してきた。また、その過程を通じて、本館はじめわが国の博物館関係者も、研修参加者から多くのことを学ぶことができた。

研修コースの設置から10年の節目を迎えた2003年、国際協力事業団は国際協力機構に衣替えし、民博もまた、2004年4月より法人化し、大学共同利用機関法人・人間文化研究機構の1機関となった。そこで、この機に当たり、改めて過去10年の成果を点検し、いくつかの点でコースの改変をおこなって、2004年度からは「博物館学集中コース」として再出発した。

この新たな「博物館学集中コース」は、民博がJICAから全面的な事業委託を受け、滋賀県立琵琶湖博物館と同で運営することとなった。もとより、実際の研修の実施に際しては、国内の多くの博物館・美術館とその関係から協力をあおぐことはいうまでもない。民博のもつ国際的ネットワークは対象国の博物館事情を踏まえた研修実施に不可欠な要因であり、またその先進的な情報・資料管理や博物館運営は研修に大きな効果を挙げている。だ、その一方で、研修員の多くにとって切実な問題である、自らの属するコミュニティの資料を収集・整理し、展示するという課題については、主として海外資料の収集・展示に関わる人文社会系の博物館である民博での研に限界があるのも事実である。そこで、2004年度からの新しいコースでは、自然科学系の博物館としてこの分野活動で先進的な業績をあげている、滋賀県立琵琶湖博物館と密接に連携することで、より充実した研修を進めてる。また、研修プログラムの設定にあたっては、各講義を講師による一方向の教育ではなく、講師や研修員がとに自らの経験や知識を共有する議論の場として位置付け、相互に学び合うコースとなるように留意している。

その後、2009年度からは、JICA 集団研修全体の枠組みが大きく変更され、3年間を一区切りとして、その間は研修員受入れ割り当て国を変更しない、という基本原則が定められた。日本の国際協力事業全体を見直す動きの中で、同一国に継続的な協力を行ってその結果が現地に確実に還元される仕組みを作り、それを3年ごとに確認して当該コースを継続すべきかを外部評価の判断にゆだねる、というJICAの方針から、このような枠組みの変更が行われたものである。しかし、民博としては、この枠組みの変更の際に、博物館関係者を3年間にわたり継続して派遣するのが困難な国も多いことを勘案して、「大きな需要を持ちながらも博物館人材の少ない国を切り捨てる結果に陥らないこと」を要望してきた。その結果、2012年度以降は、JICAが各国に向けて要望調査を行う際の、割り当て国の固定をやめ、全世界に要望調査を行うことになった。

2012年度は、エジプト・エリトリア・ヨルダン・モーリタニア・ペルー・スリランカ・スワジランドの7か国から10名の研修員を受け入れ9月20日から12月21日まで研修をおこなった。国立民族学博物館と琵琶湖博物館での実施だけではなく、東北地震の被災地や遠野市立博物館、東京国立博物館や国立科学博物館、広島平和記念資料館などの研修旅行もおこなった。また研修員全員が、自国の博物館の活動や課題を報告し、検討する「公開フォーラム世界の博物館2012」を2012年11月4日に国立民族学博物館でおこなった。84名の参加者があり、報告者と活発な意見交換を展開した。また、全期間にわたって日本のさまざまな博物館関係者と直接ふれあい、その一部の現場を訪ねることで、研修者が日本側の経験に学ぶと同時に、日本側も研修者の目を通して、日本の博物館の持っている可能性と課題に気づかされるなど、たがいに経験と知見を分かちあうことができたと考える。

●博物館学コース研修員

ABDELAAL Yasser Thabet Bakri（アブデラル ヤセル サベット バクリ）エジプト

————— 大エジプト博物館・保存修復センター保存修復ユニット 保存修復員

ABDELWAHED Nasef Elsayed（アブデルワヘッド ナセフ エルサイド）エジプト

————— 大エジプト博物館選定ユニット スーパーバイザー

KIFLEMARIAM Dawit Araia（キフレマリアム ダウィット アライア）エリトリア

————— エリトリア国立博物館中央文書技術サービス部門 ディレクター

AL-ZOU'BI Naser Shafer Azzam（アル ゾウビ ナセル シャヘル アッザム）ヨルダン

————— ウムカイス考古学博物館学芸員

Ahmed YEMBABA（アハメッド ヤハヤ ヨウムババ）モーリタニア

————— モーリタニア国立博物館 館長顧問

SARA REPETTO Cesar Luis（サラ レペット セサル ルイス）ペルー

————— レオンシオ・プラド地域考古学博物館考古学分野 学芸員補佐

RIOFRIO FLORES Maria Del Pilar (リオフリオ フロレス マリア デル ピラル) ペルー

———— リマ市文化局 文化遺産・視覚芸術部博物館・教育プロジェクト コーディネーター

SANO TAKAHASHI Susy (サノ タカハシ スシ) ペルー

———— リマ美術館 ホール・CI及びマーケティング部ホール及びデジタルメディア コーディネーター

ALAHAKOON DASANAYAKA MUDALIGE W. K. K. A. (アラハコーン ダサナヤカ ムダリゲ) スリランカ

———— 国家遺産省考古学局 アシスタントディレクター

DLUDLU Mabandla Jabulani (ドォルドォル マバンダラ ジャボラニ) スワジランド

———— スワジランドナショナルトラスト委員会 スワジランド国立博物館 博物館展示職員